

105-126

問題文

表は、2005年と2018年の食中毒統計に示された主な食中毒原因物質による食中毒の発生状況である。このうち、B～Dに当てはまる原因物質の組合せとして正しいのはどれか。1つ選べ。

表 主な食中毒原因物質による食中毒発生状況

原因物質	2005 年			2018 年		
	患者数	件数	患者数／件数	患者数	件数	患者数／件数
A	3700	144	25.7	640	18	35.6
B	2301	113	20.4	222	22	10.1
C	2643	27	97.9	2319	32	72.5
D	3439	645	5.3	1995	319	6.3
E	8727	274	31.9	8475	256	33.1

厚生労働省食中毒統計より

	B	C	D
1	カンピロバクター・ジェ ジュニ／コリ	ウェルシュ菌	腸炎ビブリオ
2	カンピロバクター・ジェ ジュニ／コリ	腸炎ビブリオ	ウェルシュ菌
3	ウェルシュ菌	カンピロバクター・ジェ ジュニ／コリ	腸炎ビブリオ
4	ウェルシュ菌	腸炎ビブリオ	カンピロバクター・ジェ ジュニ／コリ
5	腸炎ビブリオ	ウェルシュ菌	カンピロバクター・ジェ ジュニ／コリ
6	腸炎ビブリオ	カンピロバクター・ジェ ジュニ／コリ	ウェルシュ菌

解答

5

解説

1 件当たりの患者数が大きい C が「ウェルシュ菌」と考えられます。正解は 1 or 5 です。

B は近年患者数が激減している、D は継続して食中毒原因物質である、と読み取れます。腸炎ビブリオについて、食中毒原因となりやすい生食用の鮮魚介類、かき、ゆでだこ、ゆでがに等について「腸炎ビブリオの規格基準」が設けられ、減少していることが知られています。B が「腸炎ビブリオ」と考えられます。

以上より、正解は 5 です。